【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和３年度学校評価 結果・学校関係者評価

様式１（小・中）

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	鳥栖市立鳥栖中学校
1　前年度 評価結果の概要	・「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善についてより一層、共通理解、共通実践、及び授業研究を継続して実践する。 ・いじめの早期発見と組織的対応については、今後も教師が一人で抱え込まないよう、学年を中心としたチームでの対応を継続していく。 ・業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減については、具体的な取組を推進する。
2　学校教育目標	ふるさと鳥栖に誇りをもち、「学び合い、支え合い、高め合う生徒の育成」
3　本年度の重点目標	①　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善　　②　いじめの早期発見と組織的対応 ③　勤務時間を見通した働き方改革　　④　保護者・地域に信頼される学校

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5　最終評価

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・マイプランをサーバー内のフォルダに保存し、共有する。 ・校内研修等により取組の促進を図る。	C	・「マイプランの成果指標を達成するために取り組んでいる」と自己申告した教師68%。 ・校内研修等により促進を図る。	C	・「マイプランの成果指標を達成するために取り組んでいる」と自己申告した教師61%。 ・マイプランを意識した取組の促進を図ることができなかった。 ・校内研修だけでなく、連絡会等で声かけが必要である。	C	・学力向上対策シートを作成することが授業につながっているか。そもそもこのシートは必要か。中間評価をもっと活用し、チェック機能を働かせる。
	○単元の中で、学級全体や少人数で「話し合う活動」など生徒の意見を交流させ、深い学びにつなげる場面を設定	○「生徒の意見を交流させ、深い学びにつながる場面を授業に取り入れた」に肯定的な回答をした教師80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3　Vol2」の「話し合う活動」のポイントを踏まえ、「話し合う活動」等の意見を交流させる場面を単元中に設定する。	B	・「生徒の意見を交流させる場面を授業に取り入れている」と答えた教師77%。 ・「授業では交流活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができている」と答えた生徒84%。 ・校内研修等で取組の促進を図る。	B	・「生徒の意見を交流させる場面を授業に取り入れている」と答えた教師77%。 ・「授業では交流活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができている」と答えた生徒86%。 ・コロナ禍で形態を工夫しながら話し合う活動を行った。タブレットを話し合う活動のツールとして活用できた授業もあった。教師の成果指標はわずかに達成できなかったが、生徒は話し合う活動ができたと答えた。	B	・生徒の意識は上がっているが、教師は下がっている。四半期ごとにチェックして意識付けを行う等、さらに充実させる必要がある。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育の全体計画に基づいて授業を行った教師80%以上 ○人権・同和教育に関する意識が高まった生徒80%以上	・各学年ごとに、共通理解のもと共通教材を用いながら道徳の授業を実施する。 ・12月の人権週間において、生徒主体で取組を行い、人権感覚を高める。	B	・各学年ごとに、共通理解のもと共通教材を用いたり、ローテーション道徳を行ったりしながら道徳の授業を実施している。「全体計画に基づいて授業を行った」と回答した教師79%。 ・人権週間の取組では福祉委員に一人一役を担わせ、生徒主体の形に近づけることができた。学校の実態にあった取組ができた。「思いやりや人権を大切にする意識をもっている」と回答した生徒93%。	B	・新型コロナウィルス感染症の拡大防止のため、ふれあい道徳を実施することができなかった。しかし、共通教材を用いたり、学年道徳やローテーション道徳を行ったりしながら道徳の授業を実施した。成果指標については92%だった。 ・「思いやりや人権を大切にする意識をもっている」と回答した生徒の割合が1学期よりも1，2年生で低下傾向が見られた。人権週間などの取組をふだんの学校生活の中にも生かしていくことが重要だと考える。次年度継続的な取組が課題である。成果指標については94%だった。	A	・中間評価も良かった。「十分達成できた」と評価できる。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等のための取組について組織的対応ができていると回答した教師80%以上 ○教育相談、生徒指導等との連携、充実。早期発見、早期対応のための体制作りの強化	・毎月10日の「鳥栖市いじめ・いのちを考える日」に生活アンケートを実施する。 ・週に一回、生徒指導委員会を開催し、情報の共有と対策に努めていく。	A	・「いじめや兆候に迅速に対応し、組織的な取組を行っている」と回答した教師86%。 ・教育相談、生徒指導と連携し、これからもチームで対応する。	A	・「いじめや兆候に迅速に対応し、組織的な取組を行っている」と回答した教師84%。 ・週に一回、生徒指導委員会を欠かさず行い、情報の共有や今後の対応について話し合うことができた。また、この委員会を通して、教育相談と連携を図り、いじめの防止に努めることができた。	A	・成果指標は達成できているが、アンケートで「組織的な取組を行っているか」に対し、「あてはまらない」と答えた教師がいることが気になる。
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・自分の適性を見つめる学習活動を学期に1回行う。 ・学活や総合的な学習の時間を使って進路学習を充実させる。	B	・「将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒65%。1年生は71%、2年生は59%、3年生は65%で、学年によっても差がある。 ・進路学習を充実させて取り組む。	B	・「将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒は、1年生は68%、2年生は66%、3年生は73%であった。1年生と3年生で向上が見られた。成果指標は達成できなかったが、進路決定を控えた3年生が将来の夢や目標をもつことができたことは指導の成果といえる。	B	・中学生で目標が決まっていなくてもよいのではないか。職場体験等での出会いもあるだろうし、進路を考えることができればよいと思う。指標を考え直した方がよい。
●健康・体つくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上	・関連する教科等において、食に関する指導の視点を位置づけて指導する。 ・給食だよりや健康委員会による校内放送で、食事の大切さを周知する。 ・保護者会や懇談会などで、生活習慣（食生活）についての共通理解を図る。	A	・「健康のために食事は大切だと思う。」と答えた生徒92%。 ・2学期より完全給食が開始され、給食指導や当番活動、健康委員会での活動などが、全体で足並みをそろえて行えるようになった。	A	・「健康のために食事は大切だと思う。」と答えた生徒95%。 ・1学期に作ったシステムをもとに完全給食に取り組んだ。市の担当者や調理員、本校の給食担当者等と意見交換を行い随時改善を図った。 ・今後は、教科や委員会活動、保護者等との連携をさらに進める必要がある。	A	・「健康のために食事は大切だと思うか」というアンケートの聞き方を見直した方がよい。食に関する取組が、実際に自分の食生活に反映されているかをたずねるようにしてはどうか。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・月曜日の定時退勤日、ノー部活デーを励行するとともに、時間外業務時間の同月前年比10%削減を目指す。	B	・ノー部活デーは実施できているが、月曜日に設定している定時退勤日にも授業準備や生徒指導等で超過勤務をする職員が見られる。4月～11月の超過勤務時間平均は49.9時間で、対前年11月比は、99.2%でほぼ同じであった。	B	・12月、1月の超過勤務は前年度同月比94.8%、97.8%とわずかではあるが減少した。ノー部活デーは確実に実施できているが、定時退勤日が生徒指導や入試事務、コロナ対応等で実施できていない日が多かった。来年度は10%の超過勤務時間削減を実現したい。	B	・時間外業務が常態化しているようだ。退勤時刻を意識して業務に取り組まなければならない。
	○会議時間の短縮、効率化	○月曜日放課後の職員連絡会の勤務時間内終了をめざす。	・職員連絡会において、ICTを活用したペーパーレス提案により、提案時間を1分以内と定め、全ての職員連絡会を勤務時間内に終了する。	B	・職員連絡会のペーパーレス、提案時間の短縮は概ねうまくいっているが、議題が多いときもあり、勤務時間内に終了できないことがある。	B	・職員連絡会のペーパーレス化や、提案時間の短縮は概ねうまくいった。職員の会議や連絡会への提案の仕方に簡素化・効率化の意識が見られるようになった。	B	・成果指標が入っていないので、達成できているのか分からない。職員連絡会は勤務時間内に終わるようにしなければならない。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上	・小中一貫教育の柱として位置付け、小学校での取り組みとの一貫性を重視しつつ体験型の授業を重視しながら各学年で計画的に行う。 ・実施した内容を資料として残し、本年度の総括と次年度への提言を残す。	B	・新型コロナ対策等もあり、十分な取組とはならなかったが、小中一貫教育研修会へ少人数であるが参加できた。授業参観を通して小学校の学習内容と中学校での学習内容との系統性を考えることができた。 ・焼き物やプレゼンテーション、礼儀作法において体験活動により多く取り組んだ。	B	・新型コロナ対策等もあり、十分な取組とはならなかったが、小中一貫教育研修会へ少人数であるが参加できた。授業参観を通して小学校の学習内容と中学校での学習内容との系統性を考えることができた。 ・1年生は焼き物やプレゼンテーション、礼儀作法 　2年生は着付け、鳥栖にわか 　3年生はお茶会において体験活動に意欲的に多く取り組むことができた。	A	・コロナ禍だが、工夫して実施されている。子ども達が楽しく取り組むことができるよう今後も進めてもらいたい。
○開かれた学校づくり	○学校運営の状況に関する積極的な情報提供の推進	○「学校は必要な情報提供を行っている」に肯定的な回答をする保護者80%以上	・ホームページの行事予定等を1ヶ月に1回は更新する。 ・緊急のお知らせは、まちコミメールを活用し、迅速に情報を発信する。 ・学校運営協議会を中心に保護者や地域と協働する活動に取り組む。	A	・「学校はホームページやマチコミを活用し、必要な情報提供を行っている」と答えた保護者85%。 ・ホームページを1ヶ月に1回以上更新できた。 ・緊急連絡はマチコミメールを活用し、迅速に情報を発信することができた。	A	・「学校はホームページやマチコミを活用し、必要な情報提供を行っている」と答えた保護者87%。 ・ホームページを1ヶ月に1回以上更新できた。 ・緊急連絡はマチコミメールを活用し、迅速に情報を発信することができた。	A	・マチコミで頻繁に連絡がきていた。プリントを子どもが渡さないので、マチコミは便利である。登録率が高ければ効率的である。

●･･･県共通　★･･･鳥栖市共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・学校教育目標とそれに基づいた重点目標の実現に向けて、教育活動を行った。学力向上では、校内研究の取組を中心に、話し合う活動やICT利活用といった共通実践を行った。コロナ禍の影響で、話し合う活動は内容や形態を工夫して行った。タブレットを話し合う活動のツールとして活用できた授業もあった。 ・いじめの早期発見と組織的な対応については、教師のアンケート結果から組織的に対応できていると捉えることができる。今後も教師が一人で抱え込まないよう学年を中心としたチームでの対応を継続していく。 ・業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減については、現在、月曜の定時退勤の徹底や会議時間の短縮、効率化を進めているところである。ICTを活用した、会議資料のペーパーレス化や提案方法の工夫等、抜本的な取組を推進する。